

＝特集＝

# 国際交流を考える



左 スティーブ ガードナー  
Steve Gardner さん

右 カレン ガードナー  
Karen Gardner さん

外国人との交流をとなると、私達は言葉の壁を前面に出して、身構えがちになり、「理解はできるが、交流となると……」と引っ込み思案的発想で、不安の方が先にくるのではないでしょうか。

そこで、まず外国人は日本人との交流について、どのように考えているのかを、市民とも長く交流を持ってきたステイブさんご夫婦におたずねしました。

## みんな同じ人間

### 交流が願いです

日本語は全く

わかりませんでした

アメリカのフロリダ州タラハシ市から長門市に来て約7年になります。

ここには長門高校の英語教師として来ました。

私達は日本語は全くわかりませんが、母国で外国人に英語を教えていた経験が役に立ったようで、それほど大変だったとの記憶はありません。

来た頃は誰もが遠くから私達をながめる感じで、少しでも近寄ると、小走りに逃げられる人もいました。

話しかけると「ハア」とか「イヤ」とか辞書にはない言葉がでてきますし、自分の意志をはっきり伝えようとしない日本人の性格からか、理解するまでには、必要以上の時間を費やしたように思います。日本人同士では問題はないのですが、国際交流

となると、この性格は少し影響がありそうですね。

交流への

熱い思いが大切

私達は、人間はこの国の人であろうと、みんな同じ、文化や伝統の違いはあってもみんな同じ人間だとの気持で接しています。

全ての人間が英語ができるわけではありません。外国人同士でも対話できないことは、多くあります。

英語は仕事上では必要かも知れませんが、家族的つき合いのなかでは、そう必要とは思いません。言葉の違いは、交流を進めるうえで、たいした問題ではないと思います。交流しようとするのかしないのか、その気持ちが全てだと思います。

文化への理解も

交流のポイント

今では友達も多くできますし

たし、いろいろ聞いても、親切に教えてくれます。

7年の歳月が交流をスムーズにしてくれたのでしよう。

しかし、この7年間、日本の文化等について、私達なりに勉強したつもりです。

この経験からして、まず相手方の文化について、理解していくことも、国際交流のうえでの、重要な側面だと思います。

「地で行く」

交流を

誰もが7年滞在するわけではありません。

それだけに、日本の言葉では「地で行く」つまり自然に交流が行われることが大事ですね。

でも交流は……と

思っているあなたへ

気軽に声をかけてください。日本語で話をします。それならOKですよ。

# 自然なおしきあ